

推薦のことば

近年の医療科学技術の発展と普及により、わが国では多くの国民に安心と安全の医療が提供され、誰もがその恩恵に浴するようになってきました。それとともに各医療機関の情報公開が進み、国民は今まで以上に安心で安全な医療環境、今まで以上に質の高い医療技術、今まで以上に質の高い患者サービス、さらには最良の医療水準に基づいた診断・治療・検査を求めるようになってきています。

本書は、このような国民の求めに応じるハイレベルのエキスパートを目指す診療放射線技師の育成の書として生まれてきました。本書の特徴は、主に骨・関節の構造と機能、神経障害、side impression、バイオメカニズム、インプラント、老化、最新治療等を中心にわかりやすく記述されているところにあります。単純X線検査から得られる骨・関節画像情報の診断価値を高めるために、診療放射線技師が知っておくべき骨・関節の構造や機能が詳細に記述されています。同時に、外傷の重傷度を判定するための質の高いX線画像や疾病の治癒度合いを判定するための質の高いX線画像を撮影するためにも、診療放射線技師は読影力をアップさせる必要があります。本書にはこのような画像診断における読影力をアップさせるために必要なすべてが盛り込まれていますので、ぜひ利用していただきたいと思います。

平成22年4月30日、厚生労働省医政局長から「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」（医政発0430第1号）の通知が発せられました。主旨は、多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供するチーム医療の実践を求めています。診療放射線技師のところでは「放射線治療・検査・管理や画像検査等に関する業務が増大するなか、当該業務の専門家として医療現場において果たし得る役割は大きなものとなっている。以下に掲げる業務については、現行制度の下において診療放射線技師が実施することができることから、診療放射線技師を積極的に活用することが望まれている。①画像診断における読影の補助を行うこと ②放射線検査等に関する説明・相談を行うこと」と通知されています。

このような医療スタッフの協働・連携によるチーム医療が求められるなかで、その基礎を支えるためには教育が必要であります。本書を画像診断における読影の補助を実施する診療放射線技師の教科書として、大いに活用していただけるものと期待しております。

2011年8月 吉日

社団法人 日本放射線技師会

会 長 中澤 靖夫